

令和8年2月20日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) 県立高校の再編について

生徒や卒業生、あるいはその学校に慣れ親しんだ地域の方々など、様々な関係者が存在する中で、今回の再編整備を進めていくためには、色々な思いに寄り添うとともに、再編整備の先にある将来の子供達にとっての教育環境をより具体的に示し、関係者の理解を得ていく必要があると考えるが、教育長の所見を伺う。

(答)

今後、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化し、産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材の不足が生じる可能性が指摘される中、高等学校には、

- ・ 不確実な時代に自立して生きていく主権者として、A Iに代替されない能力や個性を伸長すること、
- ・ 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材を育成すること、
- ・ 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスを確保すること

の3つの視点から、改革を進めていくことが求められている状況にございます。

こうした中で、この度の県立高等学校の再編整備計画の素案は、A Iなどのデジタル技術を活用して、ものづくり等の地域産業の持続的な成長を牽引する専門人材や、地域の持続的な発展を支える人材など多様な人材を育成するため、学校統合と学科改編を組み合わせることなどにより、少子化が進展する中にあっても、生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨しながら多様な体験・学びができる教育環境を整備しようとするものでございます。

再編整備計画の素案の策定に当たりましては、令和6年に策定した「基本計画」を踏まえて昨年10月に整理・公表した「再編整備の考え方」につきまして、各市町教育委員会へ説明するとともに、素案の検討過程において、一定の方向性をとりまとめた段階で、関係市町を訪問して県教育委員会の考え方を説明し、御意見を伺ってきたところでございます。

今後、再編整備計画の素案につきまして、パブリックコメントを実施するとともに、御要望に応じて、同窓会やＰＴＡ、学校を支えていただいている地域の方々など学校の関係者に丁寧の説明を行い、御意見を伺いながら、将来の子供たちにとって、これからの社会を生き抜く力を育む魅力ある教育環境としていくため、御理解が得られるよう努めてまいりたいと考えております。